

令和5年度第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の主な意見

日時： 令和5年8月22日（火）13：30～15：30

場所： 安芸太田町東館2階大集会室

出席者： 16人中13人

1 安芸太田町まち・ひと・しごと創生総合戦略（安芸太田町長期総合計画）の施策評価に関する意見

| 【定住・人口対策】 |
|--|
| <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none">●「はじまりの家」を利用から移住に結びついた例はないとの説明であったが、移住に結びつかなかった理由は何か。また、本町に移住された方の動機について教えていただきたい。 <p>(町)</p> <ul style="list-style-type: none">◆理由は様々であると考えている。利用者には、移住担当やアドバイザーが「どういう移住を考えているのか」などを取材して、その声を移住プロモーションに活かしている。◆移住者は、地域おこし協力隊等を含む「仕事」とともに来られる方が多い。また、アンケートでは、親戚や友達がいるなど町との繋がりがある方が多いと受け止めている。 |
| <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none">●町内の体験や、季節の山菜料理が食べられるなど、一定期間集中して移住キャンペーンをやることによって本町に縁がない方でも参加してもらって、その結果移住に結び付ければいいのか。 <p>(町)</p> <ul style="list-style-type: none">◆関東圏の方々を対象にSNSを活用して、移住体験ツアーを開催した。引き続き移住キャンペーンについて工夫する。◆空き家バンクに問い合わせもあるが、希望者の要望に十分応えきれていないのが現状。引き続き空き家バンク等住居の受入れ体制の整備をすすめる |
| <p>(委員)</p> <ul style="list-style-type: none">●空き家バンクの問い合わせが多いのは評価する。物件を増やすための工夫等はどうか。 <p>(町)</p> <ul style="list-style-type: none">◆固定資産税の納付書とともに空き家相談会の通知をしている。9月には空き家相談会を開催する。◆所有者のリノベーションについて町が補助する制度を創設した。また、町営の定住住宅整備も進め、住居の確保を促進する。 |

【子育て・教育・次世代育成】

(委員)

- 加計高校の公営塾の成果が上がっていると評価する。町内中学校からの卒業生における大学への進学率というのは具体的にどうだったのか。

(町)

- ◆町内中学校からの卒業生からの大学進学数については、はっきりと把握していないが数名は国公立大学に合格したのを聞いている。

(後日高校への聞き取りから：R4 国公立大学7名・私立大学4名)

(委員)

- 安芸高田市の「高校と地域の連携強化戦略会議」に参画しているが、公営塾も検討している。すでに安芸太田町ではスタートさせており成果が上がっており評価できる。

- 加計高校維持について、活性化の戦略会議のような仕組みはどうか。

(町)

- ◆高校の活性化協議会は、平成27年に設置され活動されている。その結果が加計高校の入学の確保につながっていると考えている。今後、町内の中学生の数が減少する見通し。今年度(令和5年4月入学)、入試の倍率が県内で1番だった。町外の中学生には、積極的に加計高校を選んでもらえるよう工夫しているが、町外の生徒を受け入れると、当面、学級定員は維持できると考えている。町外と町内のバランスを考えながら取組みをすすめる。

- ◆数年前は、ライフル射撃を前面に出しPRしていたが、最近はさらに、「国際交流」、加えて大学進学率も高くなり魅力化が進んでいる。引き続き、地域にも、どんどん出てもらって町づくりにも協力いただき、町づくり分野でもさらに活躍してもらいたい。

【産業・観光・しごと】

(委員)

- 「ひろしま活力農業経営者」に、もう少し力入れてほしい。令和4年度は、就農者がいなかったようだが、これまでの経営者は、ほとんどの方が町外から移住しており、人口増加にもつながる。生産過程では、パートも必要で、地域にもお金が落ちる。

- 葉物野菜の単価安になって所得が伸び悩んでいるとある。最低価格の交渉とかそういうところも、町として考えていただいて、毎年1人は活力農業経営者を入れてもらいたい。

(町)

- ◆活力農業者については、毎年1人ずつ就農していたが、7年8年続けたが、今後の研修のあり方について見直しをしている。

- ハウスを整備するためには、広い土地がいる。その地域にバイトがない、市場(価格)の関係等いくつかの課題があった。

- 庁内で再検討し結果として、引き続き毎年1人ぐらい増やしていきたいと考えている。町独自の研修制度や土地のマッチングの見直し、スマート農業等も併せて検討していく。移住に直結するので期待をしている。

2 地方創生推進交付金事業の実施状況及び効果検証についての意見

マイナンバーカードを基盤とした安芸太田町DX推進プロジェクト

(委員)

- morica アプリをスマホに入れて利用しているが、非常に使い勝手がいいと感じている。
- 取扱店をもう少し増やしてほしい。役場に納める証明の手数料等の公金の納付も検討してもらいたい。総務省の補助事業もあるかと思うので、積極的に導入してはどうか。
- moricaの前は、プレミアム商品券というのがあったが、moricaでは、そのようなことはできないか。

(町)

- ◆公金を扱うとなると金融機関との関連も考慮しなくてはならない。検討していきたい。
- ◆moricaは定着しつつあると考えている。7月の利用も1,500万円ぐらい。年間の利用額目標を2億としている。このままいくと1億7000万円ぐらいとなる見込み。
- ◆プレミアムキャンペーンについては計画、準備中である。Moricaは、定額タクシーでも使っていただけるので、交通事業者にも輪が広がるものと考えている。

(委員)

- moricaの課題としては、利便性の向上である。特に、2年目になると利便性の向上が求められると考えているが、スマホにアプリを入れていただかないと利便性が向上しない。3年目は加盟店や企業同士の発展的な連携の仕組み等、どのような方法でやっていくのかを徐々に考えないといけない。

(町)

- ◆スマホ教室で、スマホのアプリもダウンロードしていただいて、利便性を向上させてもらいたい。
- ◆ハートフル協同組合と引き続き連携し、moricaの利便性向上を促進する。

3 その他

太田川総合開発事業について

(委員)

- 大きな話題として、ダムの新設計画が進むと思うが、まだ先の話しかもしれないが、例えば仕事も増えて、労働人口は必要になるかと思う。外部から業者等が入ってくるようになるかもしれないが、安芸太田町で働いてもらった人に定住してもらう考えがあるか。

(町)

- 大きな課題と認識している。今後のまちづくりの根幹にかかわってくる。
- 具体的な話はこれから。単純に、関連する業種を含め、仕事は増えると考えており、しっかりと定住につなげていきたい
- ダム計画の調査検討が行われて、その後建設工事に入るが、それを一過性にせず引き続きまちづくりにうまく活用できるようにしたい。ぜひそういったこともみなさんからアイデアもいただきたい。